

# 小・中学校9年間の学びと育ちを支える教育課程の編成と取組の工夫改善 — 児童生徒の自己肯定感の向上を基盤として —

「まじにはあります」

「できた」「分かった」喜び

まじにはあります

支え合う仲間

自分の居場所

富山県高岡市立高陵中学校  
富山県高岡市立定塚小学校  
富山県高岡市立平米小学校



# 研究の概要



高陵中学校区は、平成 30 年度より高岡市の「小中連携教育推進校」の指定を受けたことから、高陵中学校英語科教員による定塚小学校 6 年生外国語活動への乗り入れ授業や、学習指導・生徒指導等に関する小中連携教育推進研修会を行うなど、小中連携の在り方について研究を進めてきた。

今年度より 2 年間、国立教育政策研究所から教育課程(校種間連携)の研究指定を受けたことを機に、研究の方向性を明確にし、計画や内容を詳細に検討するなど、連携がより効果的で魅力あるものとなるよう取り組んでいる。

まず、両校の学校評価アンケートの結果等から明らかになった児童生徒の実態を踏まえ、「中学校卒業時の目指す生徒像」を設定し、9 年間で「夢や目標をもって努力する、心豊かでたくましい子供の育成」を目指すこととした。

特に、学びと育ちの基盤となる「自己肯定感の向上」を大切に、義務教育 9 年間の系統性・連続性に配慮し、児童生徒の学びと育ちを支える教育課程の編成と取組の工夫改善に努めることで、自己肯定感の向上や中 1 ギャップの解消等、小中連携教育の在り方について明らかにしたいと考える。

高陵中学校区全ての教員が、以下の六つの部会に所属し、9 年間を見通したカリキュラムの作成、一人一人を大切にされた授業の実施、特別支援学級担任の連携によるニーズに合った特別支援教育の充実、児童生徒が主体となる児童会・生徒会活動等を推進している。それぞれの取組においては、PDCA サイクルに基づく流れを大切に、ねらいを明確にした取組に努めている。



## 1 カリキュラム部会 (1 部会)

- (1) 系統的な指導計画の作成
- (2) 乗り入れ授業の実施

## 2 学習指導部会

- (1) 達成感が味わえる授業づくり (1 部会)
- (2) 一人一人を大切にされた授業の実施 (1 部会)
- (3) 学習規律の徹底 (1 部会)

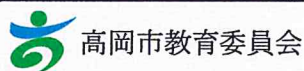
## 3 特別支援教育部会 (1 部会)

- (1) 個に応じた支援の在り方
- (2) 個別の教育支援計画・指導計画の引継ぎ

## 4 児童生徒活動部会 (1 部会)

- (1) 児童会・生徒会活動や学校行事の実施
- (2) ふるさと教育の推進
- (3) 好ましい生活習慣の形成

# 研究体制



定塚小学校



高陵中学校



平米小学校

## 小中連携教育研究会議

(校長・教頭・教務主任・研究主任・特別支援教育コーディネーター・連携教育コーディネーター・PTA 代表  
・富山県教育委員会指導主事・西部教育事務所主任指導主事・高岡市教育委員会主幹・高岡市教育センター所長・アドバイザー【元文科省教科調査官】)

管理職等連絡会 (校長・教頭・教務主任)

小中連携教育コーディネーター



## 小中連携教育推進研修会 (6 部会)

1 カリキュラム部会

2 学習指導部会

3 特別支援教育部会

4 児童生徒活動部会

達成感が味わえる授業部会

一人一人を大切にされた授業部会

学習規律の徹底部会





私たちは、9年間で

# 夢や目標をもって努力する、心豊かでたくましい子供の育成

各校の学校教育目標

## 定塚小学校



豊かな心を持ち、共に高め合う子供の育成

## 高陵中学校



自主・自律・真理探究の精神に富み、心豊かでたくましい生徒を育成する

## 平米小学校



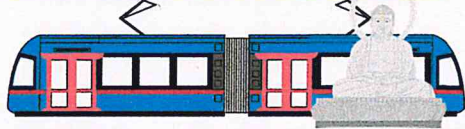
「正しく」学び、「優しく」接し、「雄々しく」生きる子供の育成

### 地域の特色

- ・高岡古城公園や「御車山」をもつ山町、商店街や再開発中の住宅街があり、高岡の発展とともに歩んできた地域である。
- ・学校、図書館、美術館、文化ホール等の文化施設も多くある。
- ・地域や保護者の教育への関心は高く、教育活動に協力的である。

### 児童生徒の実態

- ・学習に対して、自ら課題を見付け、進んで取り組んでいる。
- ・素直で礼儀正しく、校風や伝統を大切にしている。
- ・地域のボランティア活動等にも積極的に参加している。
- ・基本的生活習慣が身に付いていない児童生徒も一部見られる。



## 自己肯定感の向上

### 取組1 9年間を見通し、小中の円滑な接続ができるようにします

#### ① 系統的な指導計画の作成 **知**

- ・「学習内容系統表」「各領域に関する内容・学習課題等一覧表」作成による、各学年で指導するポイントの把握

#### ② 乗り入れ授業等の実施 **知**

- ・中学校教員の専門性を生かした6年生外国語活動（通年）や5年生音楽科の指導



### 取組2 学習指導の工夫・改善を図り、学力の向上を目指します

#### ① 達成感が味わえる授業づくり **知**

- ・学習の見通しをもったり、振り返ったりする活動の充実
- ・タブレット端末等のICT機器の活用



#### ② 一人一人を大切にした授業の実施 **徳**

- ・やる気につながる称揚や励まし
- ・互いのよさに気付き、認め合う場の設定
- ・主体的に調べたり、実験したりする活動の充実



#### ③ 学習規律の徹底 **徳**

- ・「〇〇小スタンダード」の作成とそれを踏まえた「高陵中仕方集会」による学習規律の徹底

### 取組3 切れ目のない、一人一人のニーズに合った特別支援教育を進めます

#### ① 個に応じた支援の在り方 **知**

- ・小中相互の特別支援学級担任の授業参観や情報交換会、中学校入学後にもケース会議の実施
- ・合同学習や特別支援学級見学会の開催



#### ② 個別の教育支援計画・個別の指導計画の引継ぎ **知**

- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の小中の引継ぎによる、自立と社会参加を目指す連続性をもたせた指導



### 取組4 小中の交流を充実させ、リーダーシップや好ましい生活習慣を育てます

#### ① 児童会・生徒会活動や学校行事での交流 **徳**

- ・「あいさつ運動」「クリーン作戦」等の小中合同行事の実施による思いやりの心やリーダーシップの育成



#### ② ふるさと教育の推進 **徳**

- ・高岡古城公園、高岡大仏等の歴史的遺産や美術館等の施設の活用
- ・中学生による小学生への「越中万葉かるた」の指導

#### ③ 好ましい生活習慣の育成 **体**

- ・小中で実施時期を合わせた「アウトメディア・チャレンジ週間」による家庭での時間の有効活用と自主性・自律心の育成

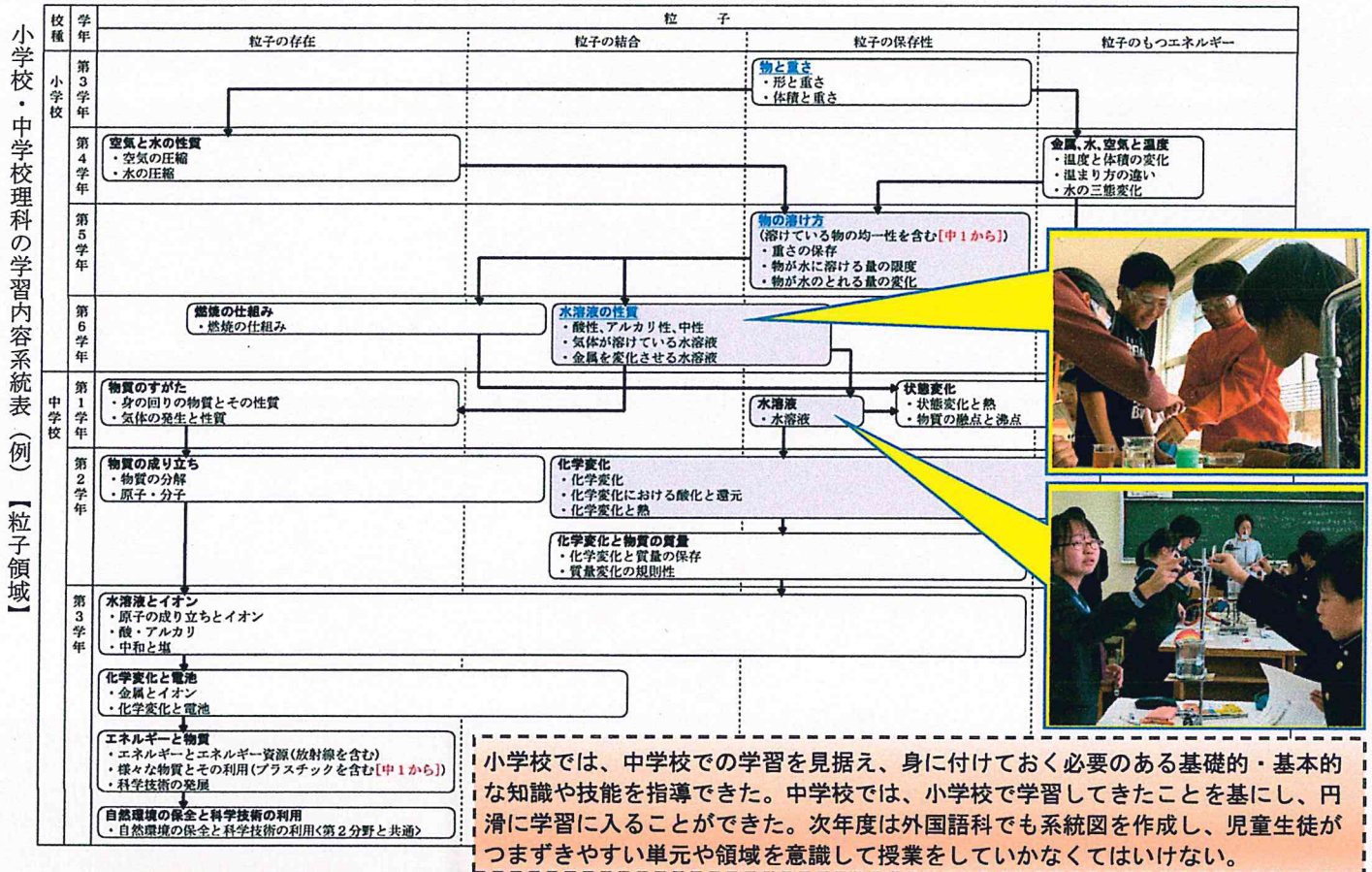




# 系統的な指導計画の作成



ねらい：9年間の学びをつないだ学習内容系統表を作成することにより、小中一貫教育の学習の系統性、連続性を教師自身が把握し、各学年のポイントを意識して指導できるようにする。



# 乗り入れ授業等の実施（外国語活動）



ねらい：中学校の学習への児童の興味・関心を高め、学習の楽しさを体験することで、進学に伴う不安を軽減する。また、基礎を学び、円滑に中学校英語を学ぶことができるようにする。



中学校教員が専門性の高い授業を行うことで、児童はアルファベットや英単語、英文を書いたり、読んだりすることに関心が高まり、基本を身に付けてきている。また、英語の学習に慣れ親しむことで自信が付き、中学校での授業に対する意欲が高まってきている。さらに、中学校教員やALTが行き来することにより、児童の学習状況について理解が図られ、中学生の指導にも生かされている。小中教員の打合せの時間の確保や行事の調整、教科化に伴う乗り入れ授業の時数確保が課題である。



グランドデザイン  
**取組 1-2**

グランドデザイン  
**取組 4-1**

**小中連携学習**

ねらい：小学生の学力・体力の向上と先輩への憧れを抱けるようにする。  
中学生の自己肯定感の向上と自己有用感の育成を目指す。

**Start !**

平米小から、「6年生の陸上がなかなか上達しないので、定塚小と合同練習をしたい」と提案。



**Step 1**

夏休みの2日間、陸上練習と算数科の学習も一緒に行うことが決定。



平米小学校のみんなと友達になって、そして、ライバルになってよかったです。足の速い人と一緒に走れたので、やる気が出ました。

**Step 2**

「算数教師ボランティア」募集のちらしを、中学生に配付。



解き方が分からなくて困っていると、中学生が分かりやすく教えてくれました。できたら「完璧!」と一緒に喜んでくれたのがうれしかったです。

**Step 3**

算数科の指導に、高陵中の生徒1~3年生、26名が自主的に参加。



メッセージカードを読んで、小学生の素直さや謙虚さに感動しました。自分が小学生の役に立っているということがうれしかったです。

**Step 4**

感謝の気持ちを表した「メッセージカード」を、平米小・定塚小から、高陵中へ心を込めて送付。



当初は小学校2校による合同陸上練習のみの企画だったが、算数学習会同時開催、中学生のボランティア参加と想定外に活動が広がっていった。わずか2日間だったが、学習・運動面は元より、定塚小・平米小児童の仲を深めたり、「あんな中学生になりたい」と先輩に憧れの気持ちをもったりすることができた。また、高陵中生徒の「今まで、人に教えてもらうことだけだった。このボランティアで人に教えることへの自信がついた。来年も参加したい」という感想からも、自己肯定感の向上や自己有用感の育成が伺える。

グランドデザイン  
**取組 1-2**

グランドデザイン  
**取組 4-1**

**合奏指導**

グランドデザイン  
**取組 4-1**

**合唱コンクール**

ねらい：小学生…楽器の演奏の技能の向上を図る。  
中学生…自己有用感を育成する。

ねらい：小学生…豊かな心を醸成する。  
中学校生活への期待がもてるようにする。

**心のつながり**



小学生に教えるなんて、最初は不安だったけど、みんな真剣に話を聞いてくれて、どんどん上手になってくれたので、とても楽しかった。こんなふうに小学生と交流できてよかった。

中学生のお兄さん、お姉さんが優しく、丁寧に教えてくれて、上手にできると、ほめてくれてすごくうれしかった。

歌には中学生の思いがたくさんつまっていると感じた。私も1年後、聴く人に勇気と笑顔を与えられるようになりたい。

コンクールの間、児童は、身を乗り出すようにしてステージを見つめ、美しい歌声に聴き入っていた。帰校後には自分たちの思いを中学生に届けた。感想からは、小学生が、中学生のハーモニーや堂々とした姿に憧れと中学校生活への期待を抱いたことが感じられた。次年度は小学生も一緒に歌うなど一体感を感じられるようにしたい。

定塚小から高陵中吹奏楽部員に連合音楽会に向けた合奏指導の依頼があった。当初は中学1、2年生の部員だけで行う予定だったが、3年生部員から「ぜひ参加したい」という強い要望があり、1~3年生の27名で参加した。短い時間だったが、生徒は小学生の役に立てたことに充実感を味わっていた。

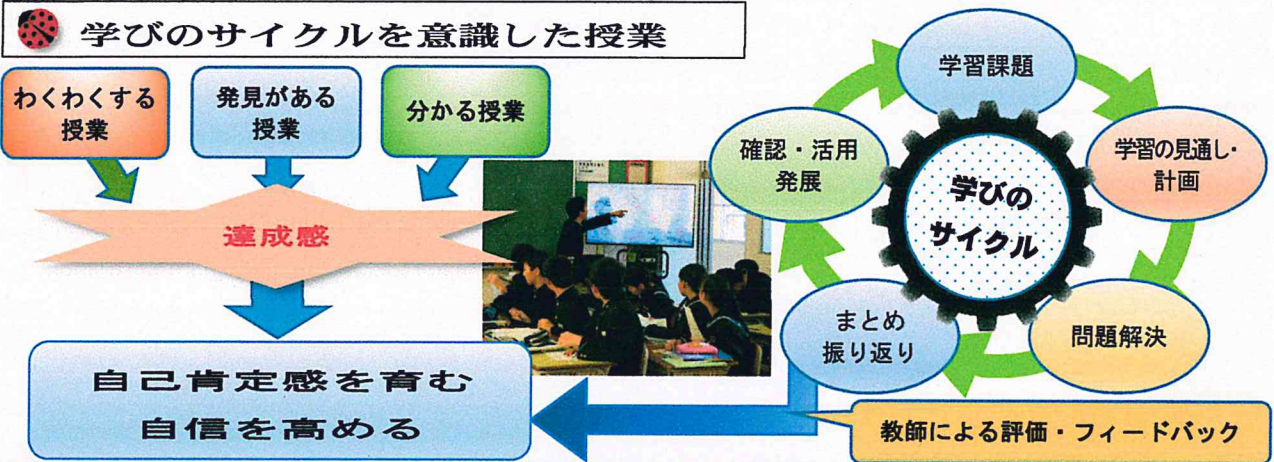


グランドデザイン  
**取組 2-①**

# 達成感が味わえる授業づくり



ねらい：学びのサイクルを意識して授業をしたり、ICT機器等を活用したりして、わくわくする授業、発見がある授業、分かる授業を行い、児童生徒が達成感を味わうことができるようにすることで、自己肯定感や自信を高める。



グランドデザイン  
**取組 2-②**

# 一人一人を大切にした授業の実施

ねらい：教師がやる気につながる称賛や励ましをしたり、児童が互いのよさに気づき認め合う場を設定したりすることで、自己存在感や共感的な人間関係を育む。

## 自己存在感をもたせる



小学校では、教師が児童に、肯定的な言葉かけをするようにしている。特に、結果だけではなく、過程も大切にし、取り組む姿勢を認めるように努めている。教師の言葉かけは、他の児童が友達にかける言葉の手本ともなっている。

中学校では、生徒のつぶやきを受け止めたり、ノートに意欲が出るコメントを記入したりするなどの関わりを大切に、自己存在感を味わえるよう努めている。

## 共感的な人間関係を育成する



小学校では、ペアやグループ学習で、学び合うよさを感じられるようにしている。話し合い活動での発言の仕方や聞き方、司会進行等、ルールや進め方を指導するようにしている。

中学校でも、友達の意見にうなずいたり、質問したりするなどの聴き方を指導している。自己評価や相互評価を生かして、生徒が互いのよさに気づき、認め合う場を設けている。

グランドデザイン  
**取組 2-③**

# 学習規律の徹底



ねらい：中学校卒業時の生徒のあるべき姿を意識して、小中学生それぞれの発達段階に応じた学習規律を設定することで、自然と規律が身に付くようにし、徹底を図る。

**定塚小スタンダード (学習)**

**学習の準備**

- 学習用具をそろえる
  - ・教科書
  - ・教科用紙
  - ・下書き用紙
  - ・ノート
  - ・定規
  - ・消しゴム
  - ・鉛筆
  - ・色鉛筆
- 学習用具をそろえる
  - ・教科書
  - ・教科用紙
  - ・下書き用紙
  - ・ノート
  - ・定規
  - ・消しゴム
  - ・鉛筆
  - ・色鉛筆

**授業中は**

- 学習の態度
  - ・正しい姿勢
  - ・「はい」「いいえ」
  - ・「はい」と声
  - ・手を挙げて発言する
  - ・発言が終わると、待つ
  - ・発言が終わると、待つ
  - ・発言が終わると、待つ
  - ・発言が終わると、待つ
- 発言の仕方
  - ・発言の仕方
  - ・発言の仕方
  - ・発言の仕方
  - ・発言の仕方
- ノート
  - ・丁寧な字を書く
  - ・訂正は消す
  - ・訂正は消す

**家庭では**

- 家庭での過ごし方
  - ・家庭での過ごし方
  - ・家庭での過ごし方
  - ・家庭での過ごし方
- 家庭学習時間のめやす
  - ・4年生以上：学習10分以上
  - ・5年生以上：学習15分以上
  - ・6年生以上：学習20分以上
- よい生活習慣
  - ・朝、起床
  - ・朝、起床
  - ・朝、起床

**定塚小スタンダード (生活)**

**登下校**

- 自分からあいさつをする
  - ・「おはよう」「お帰りなさい」
  - ・「おはよう」「お帰りなさい」
  - ・「おはよう」「お帰りなさい」
- 安全に気を付けて登下校する
  - ・歩道橋・歩道
  - ・歩道橋・歩道
  - ・歩道橋・歩道

**登校した時**

- 持ち物の整理をする
  - ・持ち物の整理
  - ・持ち物の整理
  - ・持ち物の整理
- 校舎内では
  - ・校舎内では
  - ・校舎内では
  - ・校舎内では

**学校内では**

- よりよい学校生活
  - ・よりよい学校生活
  - ・よりよい学校生活
  - ・よりよい学校生活
- 始業時間
  - ・始業時間
  - ・始業時間
  - ・始業時間
- 清掃時間
  - ・清掃時間
  - ・清掃時間
  - ・清掃時間

**家庭では**

- 朝の正しい生活
  - ・朝の正しい生活
  - ・朝の正しい生活
  - ・朝の正しい生活

**定塚小スタンダード (生活)**

**学習の準備**

- 学習用具をそろえる
  - ・教科書
  - ・教科用紙
  - ・下書き用紙
  - ・ノート
  - ・定規
  - ・消しゴム
  - ・鉛筆
  - ・色鉛筆
- 学習用具をそろえる
  - ・教科書
  - ・教科用紙
  - ・下書き用紙
  - ・ノート
  - ・定規
  - ・消しゴム
  - ・鉛筆
  - ・色鉛筆

**授業中は**

- 学習の態度
  - ・正しい姿勢
  - ・「はい」「いいえ」
  - ・「はい」と声
  - ・手を挙げて発言する
  - ・発言が終わると、待つ
  - ・発言が終わると、待つ
  - ・発言が終わると、待つ
  - ・発言が終わると、待つ
- 発言の仕方
  - ・発言の仕方
  - ・発言の仕方
  - ・発言の仕方
  - ・発言の仕方
- ノート
  - ・丁寧な字を書く
  - ・訂正は消す
  - ・訂正は消す

**家庭では**

- 家庭での過ごし方
  - ・家庭での過ごし方
  - ・家庭での過ごし方
  - ・家庭での過ごし方
- 家庭学習時間のめやす
  - ・4年生以上：学習10分以上
  - ・5年生以上：学習15分以上
  - ・6年生以上：学習20分以上
- よい生活習慣
  - ・朝、起床
  - ・朝、起床
  - ・朝、起床

**定塚小スタンダード (生活)**

**登下校**

- 自分からあいさつをする
  - ・「おはよう」「お帰りなさい」
  - ・「おはよう」「お帰りなさい」
  - ・「おはよう」「お帰りなさい」
- 安全に気を付けて登下校する
  - ・歩道橋・歩道
  - ・歩道橋・歩道
  - ・歩道橋・歩道

**登校した時**

- 持ち物の整理をする
  - ・持ち物の整理
  - ・持ち物の整理
  - ・持ち物の整理
- 校舎内では
  - ・校舎内では
  - ・校舎内では
  - ・校舎内では

**学校内では**

- よりよい学校生活
  - ・よりよい学校生活
  - ・よりよい学校生活
  - ・よりよい学校生活
- 始業時間
  - ・始業時間
  - ・始業時間
  - ・始業時間
- 清掃時間
  - ・清掃時間
  - ・清掃時間
  - ・清掃時間

**家庭では**

- 朝の正しい生活
  - ・朝の正しい生活
  - ・朝の正しい生活
  - ・朝の正しい生活





# ICTを活用した授業

自分の思いや考えが言えた

授業が分かったできた

自己肯定感の向上

自分たちの力で課題を解決できた

やってみたいことや知りたいことが勉強できた

児童生徒は、学びのサイクルを意識した授業を通し、「学び方」を学んできた。また、ICT機器を活用し、自分で情報収集したり、考えをまとめたりしている。今後は、学びのサイクルの中で全教員がICT機器を有効に活用できる授業場面を開発していきたい。

表現力の育成 生活科 (小)	思考力の育成 算数科 (小)	基礎的・基本的な力の育成 英語科 (中)	関心や意欲の向上 理科 (中)
2年生が1年生を連れて学校探検をしながら、学校生活についてタブレットを使って、問題を出した。	課題についてグループで話し合い、考えたことをタブレットにペンで書き込んでまとめた。	単語、表現活動、教科書の本文の読み取りの補助として、PCで作成した画像を大型テレビに写している。	セキツイ動物のからだのつくりや生活の様子を詳しく調べるために、ビデオ映像をタブレットで視聴した。
友達に伝えたいという思いが生まれる。	協力して考え、新たな発見が生まれる。	繰り返し見たり、練習したりできる。	新しい知識を身に付けることができる。

生きる力  
自分の力で学ぶ

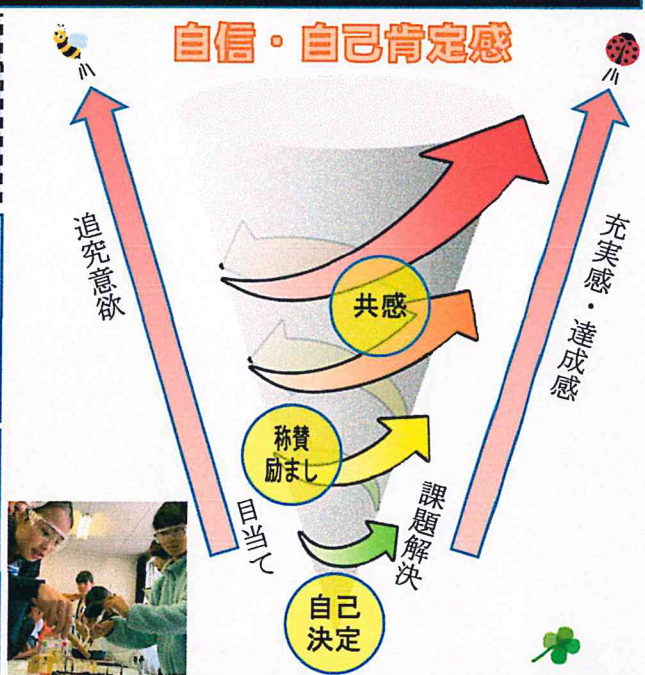
教師は、児童生徒の顔を見て、発言をうなずいて聞いたり、ネームプレートを効果的に使ったりして、一人一人を大切にしている。児童生徒相互でも、間違った発言やたどたどしい意見も最後まで聞くよう指導することで、人権尊重の意識も育まれつつある。今後も自己決定の場面を多く取り入れ、達成感を味わえるようにしていきたい。

自己決定の場を設け、自己の可能性の開発を援助する。



小学校の理科の学習では、自分の考えを確かめるための実験方法を個人で考えた後、似た考えをもつ児童とグループをつかって実験するなど、一人一人の課題追究意欲を大切にしている。

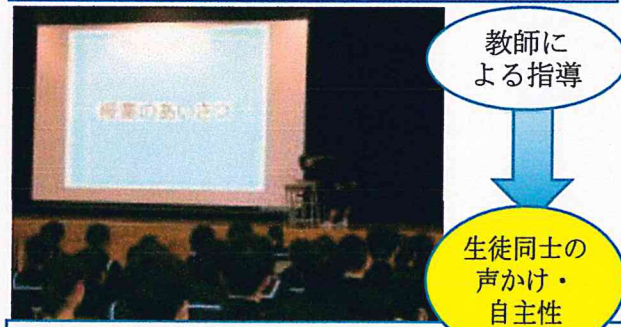
中学校の2年生の総合的な学習の時間では、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施している。将来の自分の生き方を考えるために、職種選びや事業所決定、事前の挨拶や打合せを生徒自身が行い1週間の職場体験活動を行っている。



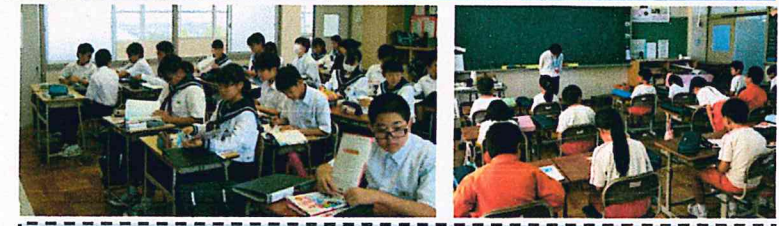
**小学校「定塚小スタンダード」**  
筆箱の中身・机上の学習用具のそろえ方、学習態度等について規律を設定し、新入生説明会で保護者にスタンダードを配付して協力を仰いでいる。各教室にも掲示し、日頃から意識して生活できるようにしている。

**2分前着席**  
学習用具の準備  
静かに待つ

小中合同で行っている。小学校では、ノーチャイムで行うことで、時間を守る習慣が身に付く。小中で同じ掲示にし、挨拶も揃えている。



**中学校「仕方集会」**  
生徒会が中心となり、スタンダードの内容を新入生に説明する集会を開き、浸透するように働きかけている。  
**「クラスの絆週間」**  
生徒会が定期考査前に実施し、授業の受け方について見直しを呼び掛けている。



学習規律について、小中学校の教員が話し合い、意思統一を図ることで、中学校進学時に必要なことを小学校でしっかりと指導するように努めている。中学校入学時に、規律の違いによる生徒の戸惑いが減り、中学校生活に円滑に入ることができる。小学校では、「定塚小スタンダード」に基づき、教師が指導していたが、中学校では生徒会が「仕方集会」「クラスの絆週間」を開くなど、発達段階に応じて、自分たちで決まりを守って学習に取り組もうという雰囲気がつくられている。今後は中学校も生徒が主体となってスタンダードを作成できないか、検討していきたい。







グランドデザイン  
**取組 4-①**

**小中合同あいさつ運動**



めあて：挨拶を通して、小中学校の交流を図り、望ましい人間関係づくりを推進する。

六月のあいさつ運動を終えて



定塚小児童会

中学生から学びたい

仲よくなりたい

感謝の気持ちを伝えたい



高陵中生徒会

小学生との距離を縮めたい

元気で活発にしたい

挨拶の輪を広めたい

中学生から挨拶の仕方を学び、気持ちのよい挨拶について考え、毎日の学校生活に生かそう。

9月のあいさつ運動では  
**やり方を見直そう**

挨拶を積極的にしたくなるような環境をつくり、小学生との挨拶の輪を広めよう。

- ① 新たな目当ての作成 ② 始めと終わりの挨拶 ③ 小中で交互に並ぶ ④ ハイタッチする ⑤ 互いのメッセージカードの交換



6月の活動を終えた後、児童会、生徒会がそれぞれ活動を振り返った。児童・生徒はお互いに心の距離や遠慮があり、よそよそしい雰囲気になっていると感じていた。意見を出し合った結果、「もっとこうしたい」という思いが表れてきた。やり方を見直す中で、課題に対する解決策として双方向から様々な提案がされた。それを基に、次回の方法について児童会・生徒会担当教員が共通理解を図り、9月に実施した。互いのアイデアが、活動の中で実践され、主体的な取組となったと感じた。また、心理的距離が縮まり、活性化したあいさつ運動になっていることを実感した。

グランドデザイン  
**取組 4-①**

**クリーン作戦**

グランドデザイン  
**取組 4-②**

**ふるさと教育**

ねらい：小学校 通学路や毎日過ごす校舎をきれいにし、2学期のスタートを気持ちよく迎える。  
中学校 校区をきれいにし、ボランティアへの意識を高める。

ねらい：郷土を愛する心を育成する。  
万葉かるたの技能の向上を図る。

今年度の取組：ねらいの共通化  
小中で連携して校区をきれいにし、ボランティアの意識を高めよう



思ったよりごみが落ちていてびっくりした。友達や家族と地域をきれいにできてよかった。



人目に付かない所にも、ごみがあった。もっときれいな地域にしたいと思った。



全校万葉かるた練習開始 (11月～)

団体優勝目指して、みんなで頑張ろう！

必勝<sup>秘</sup>ノート



中学生の協力

冬休みの合同練習会 (12月～)



先輩たちの残っていたノートは勉強になりました。私も見習いたいと思いました。

後輩のために来ました。自分が先輩に鍛えてもらったように、後輩たちにも技を伝えたいです。

次年度の取組：小中合同校区内清掃の実施  
・町内児童会ごとに活動し、6年生と中学生がリーダーシップをとって活動を行う。  
・安全性の観点から、小中学校の両PTAに協力を仰ぎ、保護者にも参加してもらう。

・先輩と一緒に万葉かるたに取り組むことで、児童は憧れを抱くとともに、技能の向上につながった。  
・代々先輩から受け継いだことを後輩にも伝えたいと、中学生は自主的に冬休みの練習に参加している。小中学生の心の絆が育まれている。  
・今後は万葉かるただけでなく、大伴家持や万葉集ゆかりの地としての誇りや愛着が育まれるような活動を工夫していきたい。



# アウトメディアデー & Rest Your Eyes

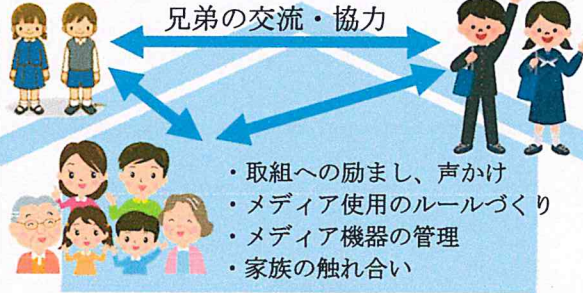
ねらい ・アウトメディアを通して、規則正しい生活習慣を定着させる。  
・自分自身で時間の使い方を考え、メディア利用をコントロールする力を身に付ける。

**定塚・平米小  
児童保健委員会**  
「アウトメディアでスマイル週間」  
「ぐっすり すいみん週間」

- ☆ 実施期間の統一（中学校の期末考査時期に合わせて）  
→家庭全体の意識を高め、家族で取り組めるようにする。
- ☆ 実施状況・成果の共有  
→児童・生徒、家庭の意識を高める。実施方法の評価・改善を行う。
- ☆ 学校保健委員会への参画（令和元年度は小中養護教諭のみ）  
→小中の健康課題を把握し、9年間を見通した指導につなげる。

**高陵中学校  
生徒保健委員会**  
「Rest Your Eyes」

◆**児童保健委員会**  
・アウトメディアに関する掲示



◆**生徒保健委員会**

- ・取組結果のお知らせ
- ・事後アンケートの実施
- ・小学校の取組を基にした実施方法の評価、改善

・すいみんだより（取組結果のお知らせ）  
ぐっすりすいみん週間だより

◆**養護教諭**

- ・家庭への協力依頼文
- ・保健便り（取組結果、アウトメディアに関する情報）

・保健だより（取組結果のお知らせ）

**保健だより**

これまで小中学校それぞれで行っていたアウトメディアの取組を、時期を統一して行ったことで、家庭全体で意識を高めて取り組むことができた。小学校の取組後の感想には、「中学生のお姉ちゃんと一緒に勉強しました」とあり、その効果が伺える。中学校の生徒保健委員会で、事後アンケートの結果や小学校の取組を参考に改善点を話し合った。すると「家族にも協力をお願いする必要がある」「目標時間の基準を変える必要があるのではないか」などの意見が出た。小中学校間で取組内容や成果を共有することで、自校の取組を評価し、時期の見直し等、よりよいものに改善していきたい。

## 次年度に向けて

- 【成果】**
- ① 小中学校の交流を通して、児童は「分かるようになった」「できるようになった」喜びや「こんな中学生になりたい」という憧れをもつことができた。中学生は、「自分も人の役に立てる」という自信をもったり、喜びを感じたりするなど、自己肯定感の向上や自己有用感の育成につながった。
  - ② 児童生徒会活動では、協力して活動に取り組んだ後、担当教員がPDCAサイクルに基づき、見直しを促した。その結果、児童生徒に主体性が生まれ、目標をもつ、粘り強く取り組む、他者と協働するなどの非認知能力が高まってきている。
  - ③ 研修会や授業見学等を通じ、教職員間の交流が深まり、児童生徒の実態や授業内容を知ることができた。その結果、児童生徒を理解する能力や授業力が向上してきている。
  - ④ 乗り入れ授業で中学校教員による授業を受けたり、学習規律を揃えたりすることで、児童は中学校生活への不安が軽減されるとともに、入学後の環境の変化に円滑に適応でき、中1ギャップの解消につながると考える。
  - ⑤ 特別支援教育においては、学級担任の情報交換、相互の授業見学や教員の乗り入れ授業等を通して、連携の充実が図られている。今後も児童生徒一人一人のニーズに合った支援ができるよう、いっそう連携を深めていきたい。
- 【課題】**
- ① 中学校から小学校へ乗り入れをしている外国語活動や、系統表に基づく実践に取り組んだ理科を中心に、カリキュラムに関する連携を行った。今後は、他教科等においても連携を進めていく必要がある。
  - ② 小学校教員の教科全般にわたる指導力、中学校教員の専門性を生かした指導力、相互のよさが生かせる取組を模索し、小中連携教育の在り方について、明らかにしていきたい。これらの取組を通して、教員のやりがいの向上と業務の負担軽減にもつなげたい。
  - ③ 校種の違う学校では行事の繁閑にずれがある。また、児童生徒の発達段階にも違いがある。日程や具体的な活動内容について、連絡調整を綿密に行い、小中連携の一体感を高めていきたい。